



申11号「2024年度夏季手当に関する申し入れ」議論をおこなう！②

(会社) 今居る社員の皆さんがこのコロナ禍を乗り越えてきたのも事実。会社が辛い時に耐えてきてもらったということも当然評価している。ただ当時も会社としてかなり無理して待遇を維持して、雇用を守り続けてきた。そういった経過があったことも貴側には認識していただきたい。一時金を大切にしていきたいのは勿論だが、そこだけに留まらず長中期的に見た待遇改善をおこなっていきたいと考えている。

(組合) 少し前の求人では、家庭と両立して働けるようなことが記載されていた。とてもじゃないがこの会社では働きながらではまともに子育てが出来ない。子育ても妻に負担を掛ける一方で申し訳がない。そういったことから家族に対するものとして満額回答を是非考えてもらいたい。契約B社員の賞与についても、ほぼ10万円弱といった支給からここ何十年と変動が殆どない。また本当はもっと働きたくても、稼ぎたくても週30時間以上働かせればよいといった考えの現場もあるようだ。それではせっかくの継続雇用制度でも思い描いていた収入がなければ辞めてしまう。今は人材確保が困難。昔のような考えでは人は集まらない。業績給という認識だけでなく、継続雇用制度者の賞与についても考えてもらいたい。以前持ち出し金について議論したが、現在も0.1ヶ月につき2000万円の持ち出しというのが現状はどうなのか。また純利益5億円といった話もある。

(会社) 現在は恐らく0.1ヶ月で1600~1700万円の持ち出しとなる。正確なものについては別途諸元を送る。純利益5億円というものは税引き前当期純利益のことである。営業収支以外にも自治体や団体、企業等からの補助金、補償金であったり一時金的なものであり、それらの中には収支に計上しないものもある。それらが全て含まれて、税金が引かれる前の利益が純利益である。借入金の返済に関しては純利益からの返済をしている。しかし当社の経営をおこなう基準や指針は、あくまで営業収支なので純利益ではなく営業利益で見たい。

(組合) 現在も好調な流れは止まってないと思っている。新年度も計画を大きく上回っていると伺う。

(会社) 4月に突発的な補助金収入があった。これを今回は営業利益として計上してしまっている。そこを差し引けばほぼ計画値での収入となっている。5月もほぼ計画通りという認識である。夏季輸送以降は昨年度よりも世間の状況が大きく変わったことから計画を高めに設定している。

(組合) 直近だと賞与については0.2ヶ月ずつ上がってきているという認識。今回は黒字に転換した。しかもその黒字転換を凶った上昇額は過去に類を見ないものだ。設備投資よりも人への投資を考える時期ではないかと認識する。必要な設備投資をおこなった上で、最大限の人への投資をすべきだ。

(会社) ここ数年は設備投資よりも、人件費により投資を傾注してきたのは事実である。この間雇用も維持してきた。そんな厳しい中ようやく今回は黒字になったという認識が皆さんにはあるのはわかる。改めて皆さんにも認識してもらいたい。このコロナ禍間は設備投資よりも人件費に傾注してきたことは職場の皆さんにも理解してほしい。コロナ禍に入ってから計画していた設備投資を凍結している状況で、それは企業として事業を継続していくことを考えるとあまりいい状況ではない。決算報告等でも明らかだが、減価償却費が従来と比べ相当落ちている。本来買ったかった車両が買えていない。そのことを勘案すると、人とモノそのバランスは考えざるを得ない。仕事道具がなくて会社が継続的に稼げなくなった時に、社員への還元ができないといった状況まで落ちてしまうことは避けたい。また設備投資に関しては先延ばししてしまうと、後々費用が余計に掛かったり、更に値上がりのリスク等もあるなど後で痛手を負ってしまうこともある。車両は今4年買っていないので、サイクルで考えると良い循環ではない。

家族にも負担や我慢を強いてきた。家族に対する還元も今ならできる！
設備投資も十分理解するが、今こそ人へ最大限の投資を！